

WA州の空手について

パースの空手道場「尚武館」でインストラクターを務める
Dion Panossian さんにお話を伺いました。

Q ご自身はいつ、どこで空手を始めましたか？

A 1982年にパースにて、両親の勧めで11歳のころに空手を始めました。その時、私を教えて下さったのが賀陽敬真先生でした。



賀陽敬真 (かよう きょうしん) 氏
オーストラリアにおける空手の普及に40年間にわたり貢献してきた。2012年9月には、氏の功績が称えられ、平成24年度外務大臣表彰が授与されている。

(参考: www.thepertthexpress.com.au/contents/news/177.php)

©Shobukan Martial Arts 子どもたちの指導にあたる賀陽敬真氏

Q パースの空手事情についてお聞かせ下さい。

A パースでは空手、テコンドー、ブラジリアン柔術の3つが人気のあるマーシャルアーツとなっています。私たちの尚武館には、3歳から70歳以上の方まで幅広い年代の人たちが通っています。また、当館では、空手の他にも「キックボクシング」やフィリピンの武術である「カリ」などのプログラムも用意されています。

Q 空手の魅力は何だと思えますか？

A 身体的な健康と成長にとっても良いと思います。さらに精神的な成長にも、同じように効果があります。空手を通して、人が生きていく上で大切なことの多くを学ぶことができます。多くの親たちが子どもに空手を習わせたがるのは、身体的な成長のためだけではありません。心・技・体を同時に鍛えられるからです。また、子どもが空手を習い始めると同時に、親も空手を始めるということもよくあります。そうすることで、空手が家族のアクティビティとなるのです。



道場で子どもたちに空手を教える Dion Panossian さん。

Q 2020年の東京オリンピックに空手が採用されるかもしれません。何に期待しますか？

A 空手が更に人気になって欲しいと思います。知っての通り、今現在はマーシャルアーツの中で柔道とテコンドーだけがオリンピック種目です。しかし、私は世界的に見て、空手がそれら2つよりも更に人気のあるマーシャルアーツだと信じています。オリンピックの種目になって、空手の世界が更に広がれば良いと思います。

Q あなたにとって空手とは何ですか？

A 私の人生の全てです。11歳のときに両親の勧めで空手を始め、それ以来、私のパーソナリティは空手道を通じ、賀陽先生が教えて下さった多くのことが元となっています。空手の形や組手の技術的な部分だけではなく、自分を律することや他者を尊重することなどのメンタル面における人生において大切なことを賀陽先生からたくさん教わりました。



空手への思い語る Dion Panossian さん

Q 読者にメッセージをお願いします。

A 空手を始めようと思い、道場やクラブを選ぶとき、政府の認可をもち、そして何より良い指導者がいるかどうかを最も大切なこととなるでしょう。素晴らしい指導者に会うことで、心身共に成長でき、また未来のオリンピックへの道も開けるかもしれません。

ディオン・パノシアンさん
Dion Panossian

尚武館のインストラクターで、西オーストラリア空手連盟の代表。また、世界空手連盟の国際審判資格を取得しており、世界中で行なわれる大会で審判を務めている。

尚武館 Shobukan Martial Arts

2001年に開館したパースの空手道場。現在、「Wangara」「Nollamara」「Joondalup」「Gosnells」に4つの道場があり、2016年には「Whitford city」に新たな道場を開く予定。それらの道場を合わせて、600人以上の生徒を抱える。

電話：08 9309 1444 ウェブサイト：<http://shobukan.com.au>

